学位被授与者氏名	加藤　正倫（かとう　まさのり）
論文題目	医師患者間コミュニケーションと患者の価値意識が患者ロイヤリティに与える影響　－ かかりつけ医普及に向けた検討 －
論文審査結果の要旨	本論文は，医療の質をコミュニケーションの側面から検討したものである．コミュニケーションの評価が良好であるとロイヤリティが高くなることは当然のことであるが，本論文では患者の持つ基本属性や医療に対する価値観との関わりについても検討している．たとえば，高齢になると，完全に病気は治癒するものではなく病気と付き合っていかなければならない．そうなると，治療をしてもらうことよりも，医師と長く付き合っていくことのほうが優先度が高くなると考えられる．つまり，コミュニケーションを高く評価する可能性が考えられる．このように，患者の基本属性や医療に対する価値観の違いがコミュニケーションをどう評価するかに影響を与える．本研究はこのような観点から医療におけるコミュニケーションを捉えようとしたものである． そこで，社会人を対象に質問紙調査を行い，価値観に対する回答からクラスタ分析によって価値観を４つ群に分け，コミュニケーションとロイヤリティの関係性にどのような影響を与えるかを検討している．必ずしも一貫性がある結果ではなかったものの，医療に対する価値観と何らかの関係性を見出すことができている． また，基本属性との関係や医療場面での問題に直面したときのコーピングとの関わりについても検討しており，コミュニケーションという一側面だけではなく，さまざまな視点からコミュニケーションについて検討している． 本論文で行った調査とその結果の分析はある程度評価できるものであるが，先行研究についての検討が十分ではなく，考察の段階においては先行研究との比較が十分になされておらず，結果の解釈に終始しており，研究に関する位置づけが必ずしも明確ではない． ただし，論文全体としてみると，コミュニケーションの評価については因子分析によって３つの因子を抽出し，医療に対する価値観もクラスタ分析によって何を重視するかの違いによるグループ化がなされており，これらの分析に基づいて，患者がコミュニケーションをどのように捉えているのか，そして医療に何を求めているのかを明らかにした点においては評価できるものである． かかりつけ医の普及が叫ばれている中，患者と医師のコミュニケーションが良好になされることがかかりつけ医の普及にとっては重要であると考えられ，本論文の研究の社会への貢献も期待できる． 平成 27 年３月３日に，北九州市立大学北方キャンパス４号館 4-301 教室において，審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し，論文の説明を受け，質疑応答ののちに，全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した．